

# ピースクラブ通信

## No. 56

発行 社会福祉法人 ピースクラブ  
 所在地 〒556-0014 大阪市浪速区大国一丁目十一番一号  
 連絡先 TEL 06-666471220077  
 FAX 06-666471220087  
 Eメール peaceclub@s2.dion.ne.jp  
 H・P http://www.ab.aunone-net.jp/~peace\_c/

### 病を得てかんだこと

#### 大橋 茂

一月のおわりの夜、急に

胸の痛みを感じ、呼吸器の

問題だとおもって救急にタ

クシーでかけつけました。診

察していただいた先生に心筋

梗塞の疑いと思ってもみな

かった病名を告げられ、あ

れどあわやとこの間に救

急車で転院、すぐにカテー

テル手術をつけました。

みなさんに「心配をおかけ

しましたが、私自身がほん

とビックリしました。

心臓の問題など感じたこと

もありませんでした。健康

に自信を持っていました。

でも2回の手術をつけ、

とりわけ2回目の手術で

かなり危険な体験をして、す

こしずつ状況がのびこめる

よつになつてきました。

なにしろ45年間ばたきま

タバコを吸い続けてきました

り、人生で二万個のアンパン

を食べ続けてきたことを自慢

気に語ったりしてきましたか

ら。

若い時から体のことも気

にかけて、整体や体操をかん

ばつてきましたし年よりつん

と若いからだだと思いで

また父が晩年になつてもタ

タバコを吸い倒して飯やお菓

子をたべまくつても、元気で

仕事を続けていたので、父に

そっくりな風貌の自分も大

丈夫と思いできました。

まあ、それは思い込みだつ

たよつで、考えてみれば父

の生活を完全にわかつていた

わけではありませんし、体

に良いことをしてきたからと

いって、おおきなストレスを

体にあたえてきたことがチ

ヤラになるはずはないのは

ふつうに考えたらわかりま

たので、生活をしっかりと反省  
して、またゆつたりとですが  
がんばつていこうと思つてい  
ます。

いまのこのよき生活を  
しています。3月22日からパ  
ン屋にも復帰します。

初心にもよつてみなを大切  
にしあえる現場にしたいとお  
もっています。のぞきにき  
てね



パン屋にて

# 牡蠣とワカメの季節

松原 佑輔

「この間は三週間お世話になりました。季節の変わり目なりました。少し体調を崩し気味ですが、皆さん如何お過ごしですか。三寒四温も終わり桜のつぼみが開花を待っているようです。昨年の今頃、僕は宮城県石巻市でワカメ漁のアルバイトをしていました。石巻は世界三大漁場の一つ、三陸・金華山沖漁場の漁業が盛んです。あつのは、ノルウェー沖とカナダ・ニューファンドランド沖です。三陸・金華山沖は潮通し

から流れるミネラルで、世界有数の植物性プロンクトンの発生地です。栄養豊富な荒波に採まれて海産物は濃く強く育ちます。東北地方太平洋沖地震に伴う東日本大震災の犠牲者の約20%が石巻市で犠牲となり、被災面積も大きく最も被害の大きかった市のひとつです。東洋一の長かった石巻漁港は復興の道半ばです。漁船、製氷工場、冷凍庫、缶詰工場、ラベル工場、流通業などまで、同時に復興しなければ産業として成り

立たないからです。

市街地では、居住可能区域がはつきりした2014年頃から新築住宅が建ち始め、今は仮設住宅から復興住宅へ転居が盛んになっていきます。思い入れのある被災家を修復して住まっていた方が復興関連道路工事の立ち退きで復興住宅に引っ越さざるを得ないなど、公共の福祉に伴う犠牲もできています。行政の余力により立ち退き料も十分ではなく、高すぎるようです。漁村では高台に新居を構えた漁師さんが仮設住宅から転居されはじめています。それでも石巻市ではまだ8672名が仮設住宅に住まわっています（今年3月調べ）。

隣接する牡鹿郡女川町は

平成の大合併で石巻市に含まれませんでした。女川原発の財政があるからだと言われています。女川町は住家の89%が被災し、そのうちの66%が全壊しました。今回の大震災の津波の最大波高14.8メートルを記録したのは女川町消防庁舎でした。高台にあった女川原発の敷地は標高14.8メートルでした。13メートルの津波が来たので、ギリギリあと8センチで済んだ。また引き潮の時に海水面が下がり過ぎて、原子炉冷却のための取水口が5分ほど剥き出しになって、いた可能性があるそうです。発電所を管理する宮城電原子

力センター、原子力防災対策センターは屋上まで冠水し

環境放射線監視システムは壊滅、多くの職員が行方不明になりました。もしメルtdownしていたらと思うところとします。報道も無く、原発のある牡鹿半島のすぐ裏の石巻市5万人の被災者はガシキで避難所から動けなかつた。そんな女川町も石巻市と比べると目を見張る復興をしています。3月17日には新しく出来



た商店街に天皇も視察に訪れたそうです。

幸いにも潮が北から南に

流れるため、100キロ以上離れた福島の放射性物質は石

巻市や女川町には届いてい

ませんし、漁場は2011年のう

ちに魚が戻っています。

あとは人と産業の回復を

待つばかりです。三陸・金華

山中の豊饒な海の幸に「期待

ください。

追伸・僕は今、福島県と栃

木原の県境に住んでいます。

靈感商法・カルト団体が

らの回復支援の手伝いをしな

がら、看護専門学校を3年

やとくにになりました。

しほらぐら自由な行き来が出

来ませんが、また何かの折に

はよろしくお願ひします。

# 与太郎の

## 与太話

郁也は自分の物差しで動い

て時々お母さんに怒られるら

しい。自分はやかれと思っ

た行動なのに怒られて意気

消沈。今日は母から大好き

な服屋の仕事なのに固まっ

ておりました。

いつもなら自分で考えて

準備をする郁也。今日は思

考停止のようだ。

「いついつ口は――から十

で準備の説明をする必要が

ある。そして販売中、相棒

のさゆり姐さんの手腕が發揮

される。

元氣のない郁也に対して

さゆり姐さんは、また怒られ

てたんか？ 直球ど真ん中

の質問をぶつける。

郁也は、怒られてたこと

をこまかしたのか？それと

もなかったことにしたいの

か？ やんちゃな郁也に戻

るのだ。さゆり姐さん曰く

郁ちゃんいつもよく働いて

くれてありがとよ。いたす

らっ子ではありますが、郁也

はさゆり姐さんのお気に入り

の大切な相棒なのだ。

# 普天間固定化阻止と島の活性化

## 新基地は必要なのか

中村晋作

(琉球新報 2016/02/10より)

先日の宮野湾市長選挙で、

長い間、過重な米軍基地負担

を強いられた、危険にさらされ

ながら日々生活している宮野

湾市民は、理解しやすい「普

天間飛行場の固定化阻止

を訴えた現職市長を選んだ。

普天間飛行場がなくなれば

地域の振興も図れる。

そして片や、自衛隊を誘致

して地域の活性化を目指す

とする両立調整を怠らぬこと

が求められる。

る島のリーダーたちがいる。

一方は発展の阻害要因とな

り、また一方は発展の起爆剤

だと考えている。ただ、共

通点は新たな「軍事基地」建

設が前提だといっている。

宮野湾市長選挙後、早速、島尻

安母子沖繩担当相は、「普天

間の一日も早い危険性除去と

全面返還を求める声が、辺野

古移設に反対する声に勝つ

た」とコメントし、翁長雄志

知事に辺野古移設認否の方

向転換を迫ったこと。い



は分断作である。

もとより、辺野浦で反対行

動を続けている住民も、普

天間飛行場の即時全面返還

を求めている。戦争状態だ

った時に造らね、その戦い

が終われば撤去されなければ

ならなかった 国際法違反の

普天間飛行場である。それ

を70年も放置し、日本政府

は代替基地ができなければ固

定化するで脅し、最新鋭基地

の建設を強引に進めたいして

いぬ、いへん、いへん、いへん

へていかなければいへん、

こま住民がいて学校もある。

基地負担の軽減につながる

ず、「基地の調・沖縄」をみ

り強固にする施策は、百年

の根根を残すというにはかなり

ない。

宮古島では観光業

が伸びている。クルーズ船の

入港も頻繁だ。下手な「箱

モノ」に手を出さなければ

平和な南の島でやっていけ

る。地元の人には自分たちが

持っている「宝」に気が付か

ないことも多い。和慶であ

ってほしいが、そこに80人

規模の「軍隊」が入ってくれ

ば、宮古島の文化は「拳」に壊

れる。配属される部隊が、も

し「米海兵隊まがい」ならぬ

事件、事故も増えるだろう。

夜の街には風俗店が溢れるが

もしれない。それが「本土資

本」ならぬ、収益は確実に

宮古島から吸い上げられてい

く。

そんな宮古島になれば、

「健全は観光客」は来ない

だらうし、宮古島の若い世代

も出ていき、宮古島を愛して

移住してきた人たちがまっ

ていくだろう。

70年ほど前に、何も知ら

ずわれないまま戦争に向かい、

苛烈な爆撃と飢えとマラリア

で多くの犠牲者を出した沖縄

・宮古島、宮古島の将来

を明るくするものにするため、そ

の気になれば判断材料はい

くなくてもあり、それを求める

ていまでいい。

宮古島の行く末について

私たち大人は、子や孫に対

し語り逃れはできない。

# 春さんだより

大西洋子

3月30日 花園公園の野

宿者を追い出すといつので

朝8時から、春さんと現場に

駆けつけた。大阪市建設局

の人々が60人位、警察もそ

れぐらい、私服もいっぱい

テントを壊しに動員されて

押し合い、押し合いました。

支援者も同じくいっぱい。

おうちさん達もいっぱい。

近くに遠くに駆けつけてくれ

た。

何をムキになって追い出し

ているのか。そんな仕事を

するために大阪市職員にな

ったのか。

市民生活を守るためにどう

も思っているのか。

今年の春さんは権力の暴

走に「野ネズミ」になって食

いつきまぐるそうです。

あちこち出没して動き回

るそうです。車イスでも車

イスだから出来ることもあ

る。頑張るぞー

最後の最後まで残って、バ

リケードで排除する大阪市の

職員、警察、一人一人をじ

つと見て確認している春さん

にすごい力と勇気をもらい

ました。

思いは絶対に負けないとい

決意を新たにしました。



（宮古島市、画家、65歳）

